

ウミゴミラの海ごみ研究室OPEN!



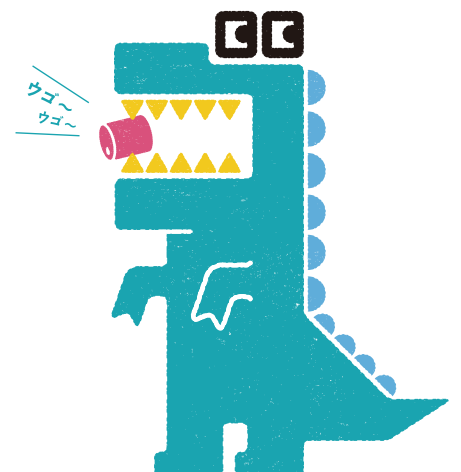
平成30年7月24日、当センター1階に「ウミゴミラの海ごみ研究室」が完成し、オープニングセレモニーが行われました。この研究室は、海ごみの現状や課題について、県民の皆さまに知ってもらうため、旧の大气汚染中央監視室をリニューアルしたものです。

研究室内には、実際に香川県の海岸で採集された海ごみの標本や、パネルなどを展示しています。開庁時には、自由に見学することが可能ですので、受付でお声をかけてください。

What's ウミゴミラ?

香川県の海ごみキャラクター「ウミゴミラ」は、瀬戸内海の海底に棲みついた海獣。本当はお魚が好きだけど、海ごみを食べてくれているととてもいいヤツなのです。

瀬戸内海には、約13,000トン以上の海ごみが沈んでいると言われており、香川県においても、約1,260トンの海ごみが存在していると推計されています。海ごみの大半は、私たちの身の回りの生活から出たごみであるため、私たち一人ひとりが、海ごみを減らすために何ができるか、考える必要があります。



研究室OPEN記念！夏休み宿題相談教室開催

ウミゴミラの海ごみ研究室では、オープンを記念して夏休み期間に計8回、小学生を対象にした夏休みの宿題相談教室を開催しました。

「海ごみ」と「磯の生き物」をテーマとして参加者を募集したところ、自由研究などの宿題に悩む小学生55名の参加がありました。

海ごみリーダー育成講座や里海プロガイド養成講座の修了生たちが、交代でアドバイザーを担当し、香川の海の現状や問題について丁寧に解説をしたり、宿題の進め方、まとめ方についてアドバイスを行ったりしました。参加者は真剣に話を聞き、時には保護者の方も一緒になって、気になったことをアドバイザーに質問していました。

参加者からは「知らないことをたくさん教えてもらえて楽しかった」、「実際に海に行って、どんなごみがあるか、生物がいるのか注目したい」という声上がり、みんな意欲にあふれた表情で帰って行きました。



香川の海ごみ情報

香川県のホームページ「香川の海ごみ情報」で、海ごみの状況や、県の取り組みについて公開しています。<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/satoumi/umigomi/index.htm>



こんな研究 やってます ⑨

指定希少野生生物ニッポンバラタナゴモニタリング調査

当センターでは、香川県のレッドデータブックで絶滅危惧種I類に指定されている「ニッポンバラタナゴ」の保護に活用するため、「タイリクバラタナゴ」との交雑の有無を遺伝子解析によりモニタリングしています。



ニッポンバラタナゴと タイリクバラタナゴ

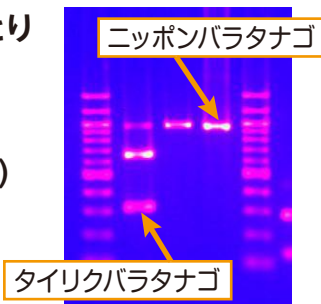
外観だけでは
判別が難しい



写真提供
(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

細胞のDNAを用いて遺伝子を解析

- ① タナゴから一部組織を切りとりDNA抽出
- ② PCR増幅、制限酵素処理
- ③ 電気泳動にて型の判別(右図)



環境DNA技術による分析の確立を目指します

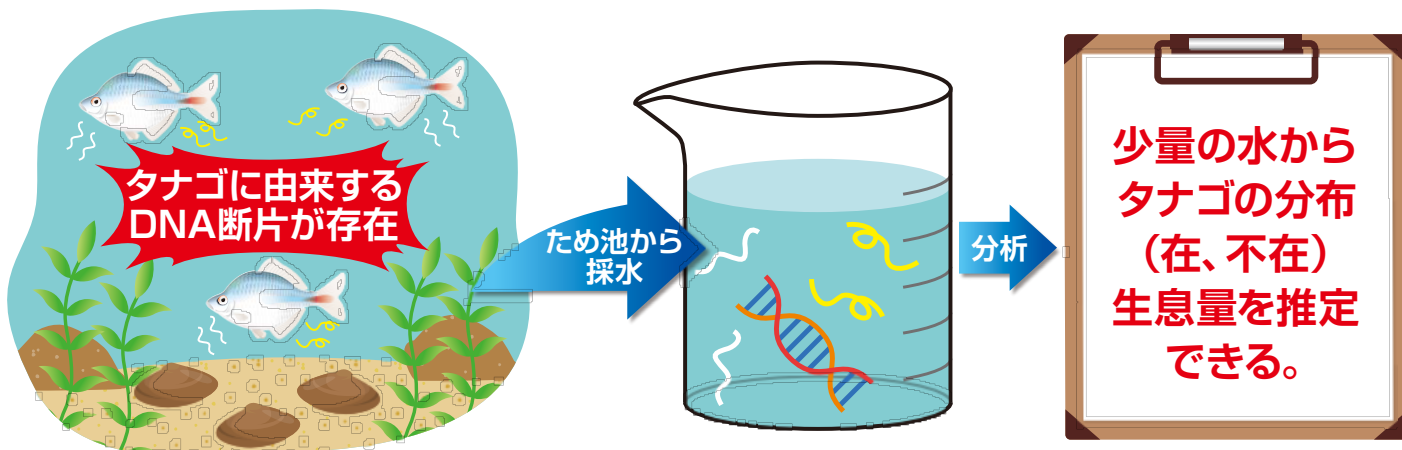
ため池でタナゴを捕獲調査するには、生息場所に隠れて捕獲できない、水の濁りや流れによって姿が見えないなど、多大な労力や時間を要してきました。

環境中に存在する生物由来の組織・細胞に含まれるDNA (環境DNA) を調べることにより

環境DNAからタナゴの分布 (在、不在)

環境DNAの量からタナゴの生息量

を推定することができます。



詰田川ボランティア清掃を行いました

6月13日の仕事終わりに、職員有志27名で、環境月間の恒例行事である詰田川河岸のゴミ拾いを行いました。

年々ゴミの量は減ってきており、30分ほどで終了しました。



緑のカーテンを作りました

ゴーヤとアサガオが夏の強い日差しを和らげてくれました。



室内から眺める癒し効果「みどり」で気持ちがリフレッシュされ涼しさを実感。

多くの生徒・学生が施設見学にやってきました

☆ 7月4日から2日間、香川県立高松工芸高等学校の3名の生徒が、環境科学部門で最終処分場放流水の測定、大気中の成分分析を行うなどの就業体験をしました。

整備している精密な分析機器に関心を寄せるとともに、分析には細心の注意が必要であること、一つの工程のミスが結果に大きく影響することを学びました。



☆ 7月13日、香川県立保健医療大学の臨床検査学科3年生21名が、「ウイルス・真菌検査学実習」の一環として、高度安全実験室の見学や防護服の脱着訓練を行いました。



☆ 7月23日、「公害防止管理者試験」を受験する香川県立高松工芸高等学校と坂出工業高等学校の生徒合わせて16名が施設見学に来ました。試料の採取から抽出、測定に至るまでの測定方法の実演と説明により、ダイオキシン類の測定に関する技術指導を行いました。

教科書には記載されていない高度で実際的な公害防止技術に触れ、知識・技術の習得と意識の高揚を図ることができました。



KAGAWA環境研だよりVol.32 平成30年9月

編集・発行 香川県環境保健研究センター

〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105

TEL (087)825-0400 FAX (087)825-0408

E-mail: kanpoken@pref.kagawa.lg.jp

U R L: http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/e_center/hoken.htm